

令和7年度大田区日常生活圏域レベル 地域ケア会議実施報告書

(令和7年4月から令和7年11月までの実施分)

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書
(令和7年4月から令和7年11月までの実施分)

No.	会議実施日	日常生活圏域	会議テーマ
1	令和7年6月17日	入新井	持続可能な居場所づくりについて
2	令和7年11月21日	馬込	「一人暮らし高齢者等の“地域の見守り”」
3	令和7年10月29日	池上	男性の元気をつなぐ 地域での見守りと居場所づくり
4	令和7年5月23日	新井宿	「福祉・文化・医療のまち」の推進について
5	令和7年8月26日	新井宿	新井宿地区の健康・地域福祉の推進について
6	令和7年7月15日	嶺町	支援や見守りが必要だが、関わりを拒否されるケース
7	令和7年10月20日	鶯の木	みんなで話そう認知症
8	令和7年11月19日	久が原	入退院時の医療と介護・福祉の連携について「第2弾」 ～地域の病院と話し合おう！退院時の情報共有について～
9	令和7年9月10日	雪谷	～雪谷地域連携懇談会～ 消費者被害を防ぎ、安心して住み続けられる見守りとは
10	令和7年10月9日	雪谷	～雪谷地域連携懇談会～ 消費者被害を防ぎ、安心して住み続けられる見守りとは
11	令和7年5月23日	千束	千束地区民生委員と地域包括支援センターとの懇談会 ①介護保険認定に関して(大田区の現状を踏まえ) ②介護サービス以外の相談(社会資源を含めた対応について)
12	令和7年7月31日	千束	第13回 千束地域包括ケアの会 認知症でも安心して暮らせる「まちづくり」へPart2 ～知ってる・見守る・つながる社会資源～
13	令和7年10月24日	千束	千束地区民生委員と地域包括支援センターとの懇談会②「数字で見る千束地域」 ・報告:熱中症予防勧奨訪問、75歳アンケート ・話題提供(テーマ) 数字で見る千束地域
14	令和7年11月14日	矢口	都営住宅における高齢者住民の見守りについて
15	令和7年7月4日	蒲田東	今倒れたらあなたはどうする？ 「起きてからでは遅い。倒れる前に考えておく事。できることから少しずつ話し合ってみましょう。」
16	令和7年11月21日	蒲田東	南蒲田三丁目町会 見守り・声掛け訓練
17	令和7年5月9日	大森東	医療・介護の支援ネットワーク構築
18	令和7年7月4日	大森東	大森東地区における生活困窮者に対する食料支援について
19	令和7年9月8日	大森東	医療・介護の支援ネットワーク構築
20	令和7年6月12日	糞谷	認知症ケアの実際と実践を地域の人にも知ってもらう 認知症理解のために必要なことは？
21	令和7年11月26日	糞谷	各専門職からみた糞谷地域高齢者の課題について
22	令和7年8月5日	羽田	①重層的支援と児童への関わりについて ②補聴器についての説明会及び意見交換会
23	令和7年9月16日	羽田	認知症、MCIの方が継続して地域の通いの場、つどいの場に参加していくための取り組み

※上記に記載されていない日常生活圏域(大森西、田園調布、六郷、蒲田西)については、今年度末までに実施予定。
※色付きの4事例を区レベル会議で報告。

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	入新井		
会議テーマ (地域課題)	持続可能な居場所づくりについて		
テーマ (地域課題) 選定理由	令和6年度中に開催された「大田区福祉フォーラム」や「地域福祉コミュニティ講演会」の報告を受け、入新井地区で何をどのように実現していくか検討していきたい。今回の地域ケア会議に参加される皆様と意見を交換し、地域住民が互いが見守りあう地域づくりのきっかけとしたい。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場 <input checked="" type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input checked="" type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (自治会・町会の加入率向上)		
開催日時	令和7年6月17日(火)	10時00分 ~ 11時00分	(1時間00分)
開催場所	大森北四丁目複合施設 シニアステーション入新井 活動室2		
出席者	入新井地区自治会連合会、入新井地区民生委員児童委員協議会、つくし訪問看護ステーション、株式会社GOOD LIFE、大田区社会福祉協議会、大田区男女平等推進センター、株式会社アトレ大森店、株式会社イトーヨーカ堂、大森北区民活動施設、社会福祉法人有隣協会、山王高齢者センター、シニアステーション入新井、大森地域福祉課、入新井特別出張所、地域包括支援センター入新井		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	2 人	民生委員
	その他地域活動団体	1 人	介護事業所
	その他民間事業所	3 人	社会福祉協議会
	特別出張所	1 人	地域福祉課
	地域包括支援センター	2 人	シニアクラブ
			医療機関・薬局
			その他
			その他区職員
			合計
			20人
検討内容	課題解決に向けた意見	・「だれでも食堂」をスマイル大森で開催するのはどうか。 ・食品ロスへの取り組みとして、アトレではアトレ大森内の各社に対応をお願いすることはできる。イトーヨーカ堂大森店は本契約しているフードバンクなし。約定をきちんとしていればフードバンクに寄付された食品の提供も不可能ではない。 ・認知症の方でも簡単な盛り付けや洗い物、掃除などでも参加できそう。 ・今後の議論は自治会連合町会長を執行委員長とした「実行委員会」のような会議体とし、事務局を包括や出張所が担えば進めやすいのではないか。 ・主体的に「やりたい」と思っている地域住民がいると良い。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・次年度に「だれでも食堂(仮称「スマイル食堂」)」を開催することを目標に、関係機関で課題を共有し、議論を深める。	
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・自治会・町会の加入率が若年層を中心に低下している。 ・多世代での交流が希薄化している。 ・交流できる場所がない。	
	事業や取組の提案	・小売店等から発生する廃棄食品を、子ども食堂やシルバー食堂などの運営に役立てられるよう、区や社会福祉協議会が仲介する仕組みがあると良いのではないか。 ・交流できる場所の発掘や居場所づくりを支援していただきたい。	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	馬込		
会議テーマ (地域課題)	「一人暮らし高齢者等の“地域の見守り”」		
テーマ (地域課題) 選定理由	高齢者の生活が変化してきたことを感じてどのように関わることができるか、高齢者に共通する課題を「見守り」という視点で意見交換したい		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年11月21日(金)	15時00分 ~ 16時20分	(1時間20分)
開催場所	馬込特別出張所 2階会議室		
出席者	馬込地区民生児童委員(高齢福祉部会)、居宅介護支援事業所、馬込特別出張所、大森地域福祉課、地域包括支援センター馬込、地域包括支援センター南馬込		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員
	その他地域活動団体	人	介護事業所
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会
	特別出張所	1人	地域福祉課
	地域包括支援センター	5人	合計
			23人
検討内容	課題解決に向けた意見	1、地域ケア会議開催の主旨説明 地域ケアシステムについて、民生委員と介護支援専門員の役割について 2、事例を通しての意見交換 4グループにわかれて、急にひとりの生活になった高齢女性が寂しさや不安が強く連日昼夜問わず民生児童委員へ電話や訪問をする事例について、KJ法を用いてグループワークを実施。 それぞれの立場や経験から、本人の寂しさ心配や楽しみを聞きつつ、家族支援や近所とのつながり、ボランティア、こどもおとな食堂、地域活動・サークルへの働きかけなど地域・社会資源の活用、介護サービスへのつながり、AIの活用など幅広い意見があった。 そこから「〇〇な馬込で生活を続けたい」とキャッチフレーズを考え、「交流ができて居心地よいホットな馬込」「井戸端会議ができる馬込」「昭和的な(普段から挨拶・声かけ・助け合う)馬込」「いつでもどこでもあなたに寄り添う馬込(近所＝近助)」など地域づくりにつながる意見となった。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・日頃から挨拶・声を掛け合う関係をつくる(地域住民、民生児童委員、包括等) ・一人の負担ではなく、互助・共助が連動して地域づくりにつながる(全員)	
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・寂しく不安な時に、昼夜問わず人と会って話ができる関係性や居場所がない。	
	事業や取組の提案	・夜も誰かと居られる24時間オープンしているおとな食堂 ・坂が多く行けない高齢者もいるため地域のサークルやシニアステーションへの送迎サービス	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	池上																														
会議テーマ (地域課題)	男性の元気をつなぐ 地域での見守りと居場所づくり																														
テーマ (地域課題) 選定理由	池上地区においては、男性の孤立化が顕著であり、地域とのつながりを持たないまま生活している方が多く見受けられる。その結果、身体機能の低下などにより状態が急激に悪化してから、ようやく地域包括支援センターと関わりを持つケースが少なくない。特に、男性の通いの場への参加率が極めて低いことから、早期の気づきや支援につながりにくい現状がある。 このため、男性の孤立防止と早期発見・早期予防の推進、そして地域全体での見守りの輪を広げることを目的として、本テーマを地域ケア会議のテーマとして選定した。																														
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()																														
開催日時	令和7年10月29日(水) 15時00分 ~ 16時30分 (1時間30分)																														
開催場所	池上会館 3階 視聴覚室																														
出席者	池上地区自治会連合会 会長、徳持北町会 会長、池上地区民生委員児童委員 会長、池上地区民生委員児童委員 代表、地域自主グループ アンドウクラブ(徳持南町会会長)、地域自主グループ 池上健康体操クラブ、特定非営利活動法人 たすけあい大田はせさんず理事、特定非営利活動法人 はせさんずケアサポート、大森地域福祉課、池上特別出張所、地域福祉コーディネーター(大森地区担当)、地域包括支援センター徳持 3名																														
出席者区分 ・人数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>自治会・町会</td> <td style="text-align: center;">2 人</td> <td>民生委員</td> <td style="text-align: center;">2 人</td> <td>シニアクラブ</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>その他地域活動団体</td> <td style="text-align: center;">2 人</td> <td>介護事業所</td> <td style="text-align: center;">2 人</td> <td>医療機関・薬局</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>その他民間事業所</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td>社会福祉協議会</td> <td style="text-align: center;">1 人</td> <td>その他</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>特別出張所</td> <td style="text-align: center;">1 人</td> <td>地域福祉課</td> <td style="text-align: center;">1 人</td> <td>その他区職員</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td> <td style="text-align: center;">3 人</td> <td style="text-align: center;">合計</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">14人</td> </tr> </table>	自治会・町会	2 人	民生委員	2 人	シニアクラブ	人	その他地域活動団体	2 人	介護事業所	2 人	医療機関・薬局	人	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	1 人	その他	人	特別出張所	1 人	地域福祉課	1 人	その他区職員	人	地域包括支援センター	3 人	合計	14人		
自治会・町会	2 人	民生委員	2 人	シニアクラブ	人																										
その他地域活動団体	2 人	介護事業所	2 人	医療機関・薬局	人																										
その他民間事業所	人	社会福祉協議会	1 人	その他	人																										
特別出張所	1 人	地域福祉課	1 人	その他区職員	人																										
地域包括支援センター	3 人	合計	14人																												
検討内容	<p>課題解決に向けた意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回想法研究に参加した3名をキーマンとして位置づけ、今後の活動展開の中心としていく。(ダンディ会へ誘い、地域活動のリーダーとして役割を担ってもらう) ・回想法チームの参加候補者には、ダンディ会など既存の男性グループへの参加を促し、地域とのつながりを持つきっかけとする。 ・池上エリアに限らず、中央地区など周辺地域にも回想法の活動を広げ、地域間連携を図る。 ・回想法人材の選定に苦慮したことから、今後は自治会・町会等に協力を依頼し、地域からの人材発掘と支援体制の構築を進める。 ・回想法に単に参加してもらうだけでなく、男性の性格傾向(プライドが高い等)を踏まえ、自分の経歴や経験を語る機会を設ける。 ・参加者が「自分にとってのメリット」を感じられる活動内容(お土産・達成感・社会参加意識の醸成など)を企画し、継続的な参加につなげる。 <p>決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、池上エリア以外で回想法を展開していく場合の回想法人材の選定については、自治会・町会・民生委員等に協力を依頼し、地域ぐるみで人材発掘を行う。 ・ダンディ会等の既存男性グループへキーマンを誘い、グループ内でのリーダー的立場として活躍してもらう。 ・活動内容は、男性の性格傾向(頑固・プライドが高い等)を踏まえ、経歴や経験を語る場、達成感や社会的承認が得られる仕掛け、「自分の魅力を発揮できる」プログラムとする。 ・各関係者は、地域における男性の孤立防止・早期支援につながる取組を日常的に意識し、情報共有と声かけを積極的に行う。 																														
区への提案会議	<p>区全体に共通すると考えられる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態が悪化してから初めて支援につながるケースが多く、早期発見・早期支援が難しい。 ・地域の通いの場やサークル活動が女性中心であり、男性が入りづらい雰囲気がある。 ・地域包括支援センターが関与できる時期が遅く、予防的支援の展開が難しい。 ・地域ぐるみで「男性の生きがい・役割」を支える仕組みづくりがまだ十分に整っていない。 <p>事業や取組の提案</p> <ol style="list-style-type: none"> ①男性の居場所づくり事業の強化 男性が気軽に参加できる通いの場やサークル活動を各圏域で設置・支援する。 趣味や特技を活かした活動(料理・写真・地域歴史談など)を通じ、地域とのつながりを促進する。 ②地域のキーマン育成・支援 地域活動意欲のある男性を「地域のリーダー」として位置づけ、育成・支援する。 ファシリテーションや傾聴などの研修機会を提供し、自主的な活動展開を促す。 ③区全体での広報・啓発活動 男性の地域参加をテーマとした広報紙特集や動画発信を行い、参加のきっかけを創出する。 成功事例や地域で活躍する男性リーダーの姿を区報やイベント等で紹介し、モデルケースとして広く発信する。 																														

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	新井宿					
会議テーマ (地域課題)	「福祉・文化・医療のまち」の推進について					
テーマ (地域課題) 選定理由	令和4年11月3日に発表した「私たちは、おもいやりの心を持って、一人ひとりが輝けるまちをつくっていきます」という福祉と文化と医療のまち新井宿宣言を実現させる為に、地域へ向けてどのようなアプローチを行っていくことが必要かを検討する。					
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input checked="" type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input checked="" type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input checked="" type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域包括支援センターを含めた、医療・福祉機関やその活動の周知)					
開催日時	令和7年5月23日(金)	15時00分 ~ 16時30分	(1時間30分)			
開催場所	新井宿特別出張所 3階 会議室					
出席者	下記のとおり					
出席者区分 ・人数	自治会・町会	7 人	民生委員	1 人	シニアクラブ	人
	その他地域活動団体	1 人	介護事業所	人	医療機関・薬局	1 人
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	2 人	その他	2 人
	特別出張所	4 人	地域福祉課	人	その他区職員	2 人
	地域包括支援センター	1 人	合計		21人	
検討内容	課題解決に向けた意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉と文化と医療のまち新井宿宣言で描いた「思いやり」があふれる地域づくりを実現させたい。 ・総合的な地域福祉の推進や健康増進を行うために各機関と地域住民が交流する場を作り、一体的な地域コミュニティ形成を目指したい。 ・各機関が抱えている地域課題についての情報共有を行うと共に、顔の見える関係を構築する必要がある。 ・新井宿地区には福祉(包括、いこいの家、サポートセンター、福祉園等)、医療(大森医師会、大森赤十字病院等)、文化(大田文化の森、粒子記念館等)様々な地域資源がある。これらの資源を活用し、地域づくりを推進したい。 ・目的を達成するための手段の一つとして、今年で5回目となる「福祉と文化と医療のまちスペシャルデー(以下、スペシャルデー)」のイベントを、関係機関で連携し開催したい。 				
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	<p>【決定事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉と文化と医療のまち新井宿宣言で描いた地域を実現する為に、「スペシャルデー」というイベントを通じて、地域住民が『思いやりの心』を持てる様働きかける。 ・必要時に福祉サービスに繋がれる様、幅広い地域住民に対して情報を発信し「地域福祉」を浸透させる。 ・健康増進を図れるよう、健康について考える機会としてもらう。 ・皆にとってわかりやすく、馴染みやすい福祉(新井宿地区における福祉)を、イベントを通じて、多くの方に知っていただくために、今年も11月3日(日)に「福祉と文化と医療のまちスペシャルデー」を自治会町会、多機関協働にて開催する。 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの機関の専門性を活かしたイベント内容を検討する。 				
区へのレベル 提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの形成が十分に醸成されていない。 ・必要時につながれる医療・福祉等の社会資源が、地域住民へ十分に知られていない。 				
	事業や取組の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・各種社会資源の地域への周知活動。 ・福祉・医療の地域住民へ向けた開発活動。 				

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	新井宿					
会議テーマ (地域課題)	新井宿地区の健康・地域福祉の推進について					
テーマ (地域課題) 選定理由	令和7年5月23日のケア会議で決定した『新井宿宣言』の実現を目指したスペシャルデー開催にあたり、各機関が具体的にどのような運営・取り組みをするか検討・共有することが必要なため。					
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input checked="" type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input checked="" type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input checked="" type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (地域包括支援センターを含めた、医療・福祉機関やその活動の周知)					
開催日時	令和7年8月26日(火)	15時00分 ~ 16時30分	(1時間30分)			
開催場所	新井宿特別出張所 3階 会議室					
出席者	下記のとおり					
出席者区分 ・人数	自治会・町会	8 人	民生委員	1 人	シニアクラブ	人
	その他地域活動団体	4 人	介護事業所	人	医療機関・薬局	人
	その他民間事業所	3 人	社会福祉協議会	2 人	その他	人
	特別出張所	4 人	地域福祉課	人	その他区職員	人
	地域包括支援センター	1 人	合計	23人		
検討内容	課題解決に向けた意見	・新井宿地区には福祉(包括、いこいの家、さぽーとぴあ等)、医療(大森医師会、大森赤十字病院等)、文化(大田文化の森等)様々な地域資源がある為、地域住民へ広く周知を図りたい。 ・「福祉と文化と医療のまちスペシャルデー(以下、スペシャルデー)」のイベント開催は、あくまでも「新井宿宣言」を実現するための手段の一つであり、イベントの開催自体が目的ではない。 ・毎年、地域住民に、医療・福祉・文化に触れあってもらう機会を作ることで「思いやりのある地域づくり」について、定期的、継続的に考えてもらいたい。 ・今年も『思いやり』について、地域住民に考えてもらうきっかけ作りをしたい。住民に様々な思いやりを書いてもらい、「思いやりの木」を作成することとする。				
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	①大田文化の森、さぽーとぴあ、それぞれの拠点でのタイムスケジュールを確認し、確定とする。 ②各関係機関が行うプログラムについて確認。また、各プログラムを運営する団体に1～2町会の担当者が付き、共同で運営する。 ③包括は「健康チェック」「福祉用具体験会」「体力測定会」の3ブースを運営。福祉と健康・医療についての普及啓発と、包括の周知を図る。				
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・「地域福祉」の重要性が浸透しておらず、地域コミュニティの形成が醸成されていない。 ・医療・福祉等の社会資源が、地域住民へ十分に知られておらず、活用しきれていない。				
	事業や取組の提案	・各種社会資源の地域への継続的な周知活動。				

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	嶺町		
会議テーマ (地域課題)	支援や見守りが必要だが、関わりを拒否されるケース		
テーマ (地域課題) 選定理由	関わりを拒否されることは見守り活動を行う上で非常に困難さを感じる。 事例を通じてオープンな形で意見交換をすることは、見守り活動の意義、継続の必要性を再確認でき、民生委員にとって包括を身近に感じてもらえる機会であると捉えている。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input checked="" type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年7月15日(火)	11時00分 ~ 12時00分	(1時間00分)
開催場所	嶺町特別出張所 3階 小集会室		
出席者	嶺町地区民生委員児童委員、嶺町特別出張所職員、調布地域福祉課、地域包括支援センター嶺町		
出席者区分 ・人数	自治会・町会 人 その他地域活動団体 人 その他民間事業所 人 特別出張所 1 人 地域包括支援センター 3 人	民生委員 17 人 介護事業所 人 社会福祉協議会 人 地域福祉課 5 人 合計	シニアクラブ 人 医療機関・薬局 人 その他 人 その他区職員 人 26人
検討内容	課題解決に向けた意見	①関わりはじめは拒否されていると感じても、継続することによって存在を認識してもらえ、信頼を得られるケースもある。 ②対象者本人が年月とともにひとり暮らし登録を忘れてしまう場合があり、また、記載された親族が登録の事実を知らない場合もある。個人情報に対して過敏にならざるを得ない世の中なので、何か手立てはないか。 ③直接的な見守りではなく、間接的な見守りを続けていくことができればいいのか。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・本人が関わり(見守りや支援)を拒否しても、孤立していない状態を地域(関係者)でつくる・検討していく。	
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・ひとり暮らし登録をしたことを家族が知る術がない。 ・ひとり暮らし登録をすることで、民生委員が訪問する事が案内に記載されていない。 ・ひとり暮らし高齢者一斉調査の際に包括で把握している注意が必要な高齢者の情報が反映されていない。	
	事業や取組の提案		

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	鶯の木		
会議テーマ (地域課題)	みんなで話そう認知症		
テーマ (地域課題) 選定理由	2024年1月「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行され、大田区においても認知症専門部会を設置するなど、認知症施策推進計画の策定に向けた動きがある。認知症当事者の方からの話も伺いながら理解を深め、地域で認知症の方と共生していくために何ができるのか、何をすべきかを考える機会とするため。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input checked="" type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年10月20日(月)	15時00分 ~ 17時00分	(2時間00分)
開催場所	特別養護老人ホームたまがわ 会議室		
出席者	民生委員 3名、介護事業所 14名、医療機関・薬局 3名、特別出張所 1名、調布地域福祉課 4名、地域包括支援センターたまがわ 3名、社会福祉協議会 1名、若年性認知症相談窓口 1名 実行委員9名(包括2名、社会福祉協議会、AIリハ、レモンホームケアサービス、ケアサポートふたば、かいごのかない、ホームケア井上、オリーブの樹)		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員 3人
	その他地域活動団体	人	介護事業所 20人
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会 2人
	特別出張所	1人	地域福祉課 4人
	地域包括支援センター	5人	その他 1人
			その他区職員 0人
			合計 39人
検討内容	課題解決に向けた意見	・若年性認知症相談支援窓口の職員による認知症に関する講義と、認知症当事者3名とのパネルディスカッションを合わせて1時間程度行った。認知症施策の動向や鶯の木地域に関する特徴も話していただき、当事者の方には若年性認知症相談支援窓口の職員からの質問に答えてもらう形で進行。後半は、6グループに分かれてのグループワーク、認知症当事者の方にもグループに加わっていただき、当事者の方と直接話をする時間とした。 ・専門職として認知症の方と関わってきたが、直接話をするよい機会になった。 ・頭では理解しているつもりだが、当事者からの話を聞くとより重みを感じた。 ・当事者の声を抜きに考えていたことに気づかされた。 このような意見が聞かれた。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・グループワークの中で出た当事者らの言葉や、実生活での体験談が大変貴重だった。「ヘルプカードを持っているが普段はしまいこんでいる。オレンジリングを持っている人がいると安心する」「受診先でさっきまで自分と話をしていたが、認知症の診断が出た途端家族等に向けて話をするようになった」 ・この会議で決定したことは無いが、参加した皆様からは「直接話をできたのは良かった」「自分たちが変わる(新しい認知症観)が必要だ」「専門職として認知症の方と向き合ってきたがまだまだ理解できていないと感じた」といった声が多く聞かれた。認知症が珍しい病気ではなく、糖尿病や高血圧のように一般的にも受け入れられる社会になる必要があるのではないかという意見でまとまった。	
区 への レベル 提案 会議	区全体に共通 すると考えられる 課題	・「認知症＝何もわからない、できない人」という先入観からの脱却	
	事業や取組 の提案	・今回のように当事者の声をきちんと聞き、当事者を中心に物事を考えていく。特別な人ではなく普通の人であり、普通に接することの大切さを広めていく。	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	久が原		
会議テーマ (地域課題)	入退院時の医療と介護・福祉の連携について「第2弾」 ～地域の病院と話し合おう！退院時の情報共有について～		
テーマ (地域課題) 選定理由	昨年度のこの会において、地域の病院と介護・福祉事業者とで入退院時のよりよい連携のため、共有が必要な情報について話し合い、入退院時の連携シートを作成した。今年度は退院時に焦点を当て、さらに地域の病院の特徴や連携方法を知り、病院の退院支援関係者とグループディスカッションすることでよりスムーズな連携を目指し、このテーマを選定した。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 孤立防止 <input checked="" type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (医療と介護・福祉の連携)		
開催日時	令和7年11月19日(水) 19時00分 ～ 20時30分 (1時間30分)		
開催場所	池上高齢者在宅サービスセンター(特別養護老人ホーム池上1階)		
出席者	医師 3名、薬剤師 5名、看護師 9名、理学療法士 4名、在宅医療相談員 1名、介護支援専門員 24名、福祉用具専門相談員 7名、その他 1名、地域福祉コーディネーター 1名、調布地域福祉課 6名、病院医療ソーシャルワーカー 8名、病院看護師 6名、地域包括支援センター久が原 7名		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員
	その他地域活動団体	人	介護事業所
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会
	特別出張所	人	地域福祉課
	地域包括支援センター	7 人	合計
			82人
検討内容	1. 病院からの情報提供「退院支援の取り組み、地域との連携、病院の特色 等」 池上総合病院 大田池上病院 大森赤十字病院 奥沢病院 田園調布中央病院 東急病院 東邦大学医療センター大森病院 2. 介護・福祉からの情報提供「ここまでできる！退院支援～福祉用具の視点から～」(株)東基 (株)ヤマシタ 3. グループワーク テーマ:「相手の立場を知って、つながりの難しさを解消しよう」 ・10年前に比べると連携がスムーズになったので、連携への意識が高まっているのではないかと。 ・訪問診療、訪問看護の連携は、経験によって意識・理解度に異なりがある。 ・タイムリーな情報共有が困難なので、電話などを活用して、適宜情報共有する必要がある。 ・訪問看護は把握していても、疾病以外の情報は、医師に共有されないことがある。 ・家族との関係性、有無、家族背景、本人の状況が事前に把握できると、スムーズな退院調整を行うことが可能となる。 ・地域の方の入院相談では、スピード感が求められているが、介護保険申請の案内をされた場合、包括と連携が取れるとスムーズに対応できる。 ・今回、入院中から福祉用具を試せることを知った。入院中に試すことができれば、退院後も慣れた用具を使用できる。入院中に福祉用具を導入することで、ケアマネジャーとも早期から連携することが可能となる。 ・訪問看護サービスは、医療と介護との連携を促進する役割も期待されている。 ・受診先が複数ある場合には、主治医を決めて頂けると連携がしやすい。 ・介護ニーズがあるがサービス利用につながらない方の場合には、多職種で連携することが必要。 ・ケアマネジャーから適切な時期の情報提供や、サービスの方向性を示してくれると連携がとりやすい。		
	決定事項・ 役割分担 (日常生活 圏域における 今後の取組)	・本人、キーパーソン、サービス、医療が同じ方向を目指していると退院調整がうまくいく。退院後の生活や、地域での生活をふまえた情報共有に基づいた準備が可能となる。 ・患者・利用者が安全に在宅復帰できる支援を、それぞれが連携しながら行っていく必要がある。 ・入院前の、外来受診時に包括へ相談することも大事。 ・調剤薬局が、退院前カンファレンスに参加できると、早期から服薬支援に関わることができる。	
区 への レベル 提案 会議	区全体に共通 すると思われる 課題	・入院日数の短期化により(急性期入院の場合は10日前後)、連携できずに退院となるケースが多い。 ・老々介護などにより、キーパーソンが不在なケースが多い。 ・サービスが必要な状態でも、サービスを希望しないケースもある。(知識不足やセルフネグレクト状態等)	
	事業や取組 の提案	・退院時に、病院と在宅介護関係者での情報共有ツールがあると、情報共有がしやすい。	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	雪谷		
会議テーマ (地域課題)	～雪谷地域連携懇談会～ 消費者被害を防ぎ、安心して住み続けられる見守りとは		
テーマ (地域課題) 選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の増加 ・町会、自治会の加入率が低下しており地域のつながりが希薄 		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場 <input checked="" type="checkbox"/> 多世代交流 <input checked="" type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年9月10日(水)	13時30分 ～ 15時00分	(1時間30分)
開催場所	雪谷特別出張所 3階 集会室		
出席者	雪谷地区民生児童委員、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、雪谷特別出張所、調布地域福祉課、地域包括支援センター上池台		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員
	その他地域活動団体	人	介護事業所
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会
	特別出張所	2人	地域福祉課
	地域包括支援センター	6人	合計
			36人
検討内容	課題解決に向けた意見	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の情報を色々な媒体で広める必要がある。 ・まずは挨拶をする事から地域のつながりが生まれる。 ・ICTを活用した見守りも有効。 ・防災訓練のように消費者被害訓練もあると良い。 ・自治会の加入率を上げると見守りができる。 ・身近な所に居場所があると早期発見ができる。 	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	【民生委員児童委員】 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の業務を通して、自動通話録音機や見守りキーホルダーの案内を行ってもらう。 ・認知面の低下がある方や気がかりな人を早期に発見して報告してもらう。 ・地域でのイベントや居場所などの案内をしてもらう。 【居宅介護支援事業所】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族に自動通話録音機や見守りキーホルダーの案内を行ってもらう。 ・介護保険サービス以外の居場所を案内してもらう。 	
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の普及啓発 ・警察、消費者生活センターと連携したリアルタイムでの情報発信 	
	事業や取組の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の模擬訓練(電話対応・訪問対応など) ・認サポなどでの周知 	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	雪谷		
会議テーマ (地域課題)	～雪谷地域連携懇談会～ 消費者被害を防ぎ、安心して住み続けられる見守りとは		
テーマ (地域課題) 選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の増加 ・町会、自治会の加入率が低下しており地域のつながりが希薄 		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場 <input checked="" type="checkbox"/> 多世代交流 <input checked="" type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年10月9日(木)	13時30分 ～ 15時00分	(1時間30分)
開催場所	雪谷特別出張所 3階 集会室		
出席者	雪谷地区民生児童委員、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、雪谷特別出張所、調布地域福祉課、地域包括支援センター上池台		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員
	その他地域活動団体	人	介護事業所
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会
	特別出張所	2人	地域福祉課
	地域包括支援センター	6人	合計
			50人
検討内容	課題解決に向けた意見	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りKHを電子化して追跡機能を加える。 ・挨拶から地域のつながりが生まれる。 ・お互いに関心を持つ事が大切。 ・実際に起こった消費者被害をリアルタイムで配信してもらいたい。 ・人によって見る媒体が違うので色々な媒体で消費者被害を周知してもらいたい。 	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	【民生委員児童委員】 ・気がかりな人がいたら連絡をもらう。 ・ひとり暮らし登録をしている人に見守りキーホルダーも案内してもらう。 【居宅介護支援事業所】 ・包括が開催しているイベント等の案内をしてもらう。 ・認サポ、ステップアップ講座の受講。	
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の普及啓発 ・警察、消費者生活センターと連携したリアルタイムでの情報発信 	
	事業や取組の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の模擬訓練(電話対応・訪問対応など) ・見守りキーホルダーのICT化(位置情報など) 	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	千東		
会議テーマ (地域課題)	千東地区民生委員と地域包括支援センターとの懇談会 ①介護保険認定に関して(大田区の現状を踏まえ) ②介護サービス以外の相談(社会資源を含めた対応について)		
テーマ (地域課題) 選定理由	地域住民から包括及び民生委員へ介護保険サービス以外の相談や対応を求められた時など、実際どのように対応しているか、お互いが知りえる社会資源を情報を共有するため。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 孤立防止 <input checked="" type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input checked="" type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年5月23日(金) 10時00分 ~ 11時30分 (1時間30分)		
開催場所	千東特別出張所 大会議室		
出席者	千東地区民生委員 14名、児童委員 2名、調布地域福祉課 2名、地域包括支援センター千東 5名		
出席者区分 ・人数	自治会・町会 人 その他地域活動団体 人 その他民間事業所 人 特別出張所 人 地域包括支援センター 5人	民生委員 16人 介護事業所 人 社会福祉協議会 人 地域福祉課 2人 合計	シニアクラブ 人 医療機関・薬局 人 その他 人 その他区職員 人 23人
検討内容	課題解決に向けた意見	・一時的には民生委員、近隣住民が手伝うことが多いが、続く場合は「身近に手伝ってくれる人がいないか」情報収集し、地域の慣習も確認する。民間サービスは、獣医、ペットホテル、動物シッター、ネットオーダー、生協、配食サービス、飲食店の配達、シルバー人材センター、清掃局の戸別収集を利用する。 ・介護サービスの理解の中で、「認定調査を終えたら自動的にケアマネジャーが選定される」「介護認定がおりたらケアマネジャーがいる」と勘違いされていることがあった。介護サービスは、対象者の課題をアセスメントして調整するという事を伝えることが出来てよかった。 ・基本的に金銭の貸し借りはするべきではないと理解していても、食事が無い時は見過ごせない。生活再建は、後見制度や権利擁護事業、JOBOTA等の相談機関もある。 ・民生委員はケアマネジャーがいる、いないに関わらないので、違いを感じないが、サービス担当者会議に同席できれば状況把握や、不測の事態への対応を相談しやすい。 ・日ごろから社会資源を調べ備えることが大事。 ・マンションでゴミ捨ての協力システムがある場合、民生委員も知れると良い。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・ひとり暮らし登録者のサービス担当者会議に民生委員が同席する。 ・民生委員が希望すれば、次回以降介護保険サービスの具体的な内容も伝える。 ・高齢者サービスガイド、シルバー人材センターのちょっとしたサービスの周知。 ・介護サービス以外の相談が民生委員にあった時に、民間サービスも検討できるように情報提供する。	
区レベルの提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・民生委員、近隣住民はケアマネジャーの業務内容が分からない。 ・サービス担当者会議に民生委員を呼ぶことがなく、お互いの役割を共有できない。 ・ペット関連の社会資源の情報が少ない。	
	事業や取組の提案	・ひとり暮らし登録の方のサービス担当者会議は、民生委員にも声掛けをする。 ・ペットを買っている場合は、あらかじめ緊急入院時の対応を相談しておく。 ・幅広い分野の社会資源の情報収集を続ける。	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	千東																														
会議テーマ (地域課題)	第13回 千東地域包括ケアの会 認知症でも安心して暮らせる「まちづくり」へPart2 ～知ってる・見守る・つながる社会資源～																														
テーマ (地域課題) 選定理由	本会の基本コンセプト「住み慣れた街の中でどんな方でも、いつでも出かけられる、出かけていけるまちづくり」(まちリハ)として、昨年に引き続き、認知症になっても安心して暮らせる地域とは？を共通課題として、専門職や地域・行政のがともに社会資源を知る、新たに必要な地域の社会資源について共に考えてみる機会として開催。																														
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input checked="" type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()																														
開催日時	令和7年7月31日(木) 19時30分 ～ 21時00分 (1時間30分)																														
開催場所	千東特別出張所 大会議室																														
出席者	医師 6名、看護師 10名、薬剤師 9名、介護支援専門員 11名、管理栄養士 3名、理学療法士 5名、作業療法士 1名、MSW 3名、社会福祉協議会 2名、NPO 1名、民生委員 6名、地域活動団体 2名、看護小規模多機能 1名、行政 7名、調布地域福祉課 6名、地域包括支援センター千東 5名																														
出席者区分 ・人数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>自治会・町会</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td>民生委員</td> <td style="text-align: center;">6人</td> <td>シニアクラブ</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>その他地域活動団体</td> <td style="text-align: center;">2人</td> <td>介護事業所</td> <td style="text-align: center;">13人</td> <td>医療機関・薬局</td> <td style="text-align: center;">36人</td> </tr> <tr> <td>その他民間事業所</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td>社会福祉協議会</td> <td style="text-align: center;">2人</td> <td>その他</td> <td style="text-align: center;">1人</td> </tr> <tr> <td>特別出張所</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td>地域福祉課</td> <td style="text-align: center;">6人</td> <td>その他区職員</td> <td style="text-align: center;">1人</td> </tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td> <td style="text-align: center;">5人</td> <td style="text-align: center;">合計</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">72人</td> </tr> </table>	自治会・町会	人	民生委員	6人	シニアクラブ	人	その他地域活動団体	2人	介護事業所	13人	医療機関・薬局	36人	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	2人	その他	1人	特別出張所	人	地域福祉課	6人	その他区職員	1人	地域包括支援センター	5人	合計	72人		
自治会・町会	人	民生委員	6人	シニアクラブ	人																										
その他地域活動団体	2人	介護事業所	13人	医療機関・薬局	36人																										
その他民間事業所	人	社会福祉協議会	2人	その他	1人																										
特別出張所	人	地域福祉課	6人	その他区職員	1人																										
地域包括支援センター	5人	合計	72人																												
検討内容	<p>第1部 情報提供:地域の集いの場 ○シニアステーション千東○Caféひなたぼっこ</p> <p>第2部 グループディスカッション ○地域の社会資源について考える(事例:徘徊が問題になっている老々介護世帯が利用できる社会資源) 見守りキーホルダー等のツールやAI活用、民間含めての人的な見守り(警察・駅、マンション、スーパー等)、居場所や通いの場(図書館、オレンジカフェ、地域イベント等)～地域・住民同士のコミュニティ～専門職による支援まで幅広く意見交換。</p>																														
決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症についての理解促進、啓発(認知症サポーター養成講座やチームオレンジ活動参加促進) ・地域社会との連携、繋がり強化(近隣での見守り～平時からの挨拶・声かけ) ・認知症当事者の役割創出や居場所や通いの場づくり、関係機関での情報共有 ・多様な支援サービスの周知、情報が届く仕組みやネットワークづくり 																														
区へのレベル提案会議	<p>区全体に共通すると思われる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症についての理解(介護・医療面、予防や自分のこととして等) ・インフォーマル、地域での見守り体制・通いの場等へ出てこない方(男性独居者等) <p>事業や取組の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りキーホルダーへのGPS機能付加等 ・認知症前の段階からのコミュニティ参加促進等 																														

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	千東		
会議テーマ (地域課題)	千東地区民生委員と地域包括支援センターとの懇談会②「数字で見る千東地域」 ・報告:熱中症予防勧奨訪問、75歳アンケート ・話題提供(テーマ) 数字で見る千東地域		
テーマ (地域課題) 選定理由	千東地域の高齢者が囲まれている環境の特性や現状を民生委員と一緒に見立て・情報共有することで、それぞれの認識を理解し多面的に地域課題を探るため。今までと違う方法・視点を取り入れる。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input checked="" type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input checked="" type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (交通と安全、物理的環境)		
開催日時	令和7年10月24日(金) 10時00分 ~ 11時30分 (1時間30分)		
開催場所	千東特別出張所 大会議室		
出席者	千東地区民生委員 14名、児童委員 2名、調布地域福祉課 2名、地域包括支援センター千東 5名		
出席者区分 ・人数	自治会・町会 人	民生委員 16 人	シニアクラブ 人
	その他地域活動団体 人	介護事業所 人	医療機関・薬局 人
	その他民間事業所 人	社会福祉協議会 人	その他 人
	特別出張所 人	地域福祉課 2 人	その他区職員 人
	地域包括支援センター 5 人	合計	23人
検討内容	課題解決に向けた意見	○地域診断の手法を取り入れて課題抽出のグループワークを行う。コア+8つのサブシステムのうち交通・物理的環境・レクリエーション(通いの場)について既存資料と資料で得られないものをグループ内での話で情報収集。 ・歩くのに負担感が大きい坂⇒神明坂・稲荷坂・清水窪等、信号が渡りにくい⇒千東五差路・長原商店街横断歩道の自転車など。 ・地域内の移動方法⇒徒歩、自転車、ショッピングカート、杖、シルバーカー、電動車いす ・買物⇒HIRUMA、東急ストア(大岡山・洗足・長原)、オリンピック、ローソン、商店街等 ・交通事故の危険・まわり道⇒地図を使って確認 ・おしゃべりできる場所⇒洗足池公園ベンチ、東京科学大、大岡山駅前ベンチ、桜新道など ○話しておきたいこと・課題抽出 自転車やキックボード等の危険走行、人が増えても変わらない狭い道路事情、人が集まれるイートインの減少や活用されている公園・活用されない公園との差が挙げられた。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・地域の強みとして、シニアステーション千東・千東いこいの家・石川町文化センターの存在が挙げられている。利用の促進を民生委員・包括ともそれぞれの立場から行い続ける。 ・交通面での危険な場所や急な坂道の把握と同時に迂回路を考え、情報共有する。 ・信号機のある広い道の横断や坂道のある地域での生活には、歩く力の維持は欠かせない事の再認識。包括は地域診断を継続し、俯瞰的視点、流れや逆に見る視点から千東地域を見て課題を背景から発見していく。住民である民生委員や働く事業所と実際に歩く地区踏査ができると良い。	
区へのレベル 提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・ルールを守らない走行や混んでいる場所の自転車及びキックボードが高齢者をはじめ、力が弱く、早く動くことができない人へ与える危険。	
	事業や取組の提案	・包括看護職と行政保健師が共同で地域診断を深めることが出来ていない。担当地域の健康課題の抽出が具体的にできていない。地域診断を標準にしたツールを示していただき地域課題や強みを探る取り組みができると良い。	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	矢口					
会議テーマ (地域課題)	都営住宅における高齢者住民の見守りについて					
テーマ (地域課題) 選定理由	都営住宅では、他の地域と比べて高齢化率が極めて高く、それに伴い、独居高齢者や高齢者夫婦への見守りが切迫した課題になっている。 そこで、今回は自治会などに加えて関係機関も交えて、情報交換と連携の機会を設ける。					
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (外国人との共生)					
開催日時	令和7年11月14日(金)	10時00分 ~ 12時00分	(2時間00分)			
開催場所	矢口特別出張所 大会議室					
出席者	矢口地区民生委員児童委員協議会、下丸子27号自治会、矢口地区民生委員児童委員、矢口二丁目16号館自治会、矢口地区民生委員児童委員、矢口二丁目15号館自治会、矢口あけぼの会、JKK東京、池上警察署、TCS下丸子、ALSOK介護所、蒲田地区地域福祉コーディネーター、区社協矢口地区担当、矢口特別出張所、地域包括支援センターやぐち					
出席者区分 ・人数	自治会・町会	4 人	民生委員	3 人	シニアクラブ	1 人
	その他地域活動団体	人	介護事業所	2 人	医療機関・薬局	人
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	2 人	その他	3 人
	特別出張所	2 人	地域福祉課	人	その他区職員	人
	地域包括支援センター	3 人	合計		20人	
検討内容	<p>【都営住宅15号館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日以上不在となる時は隣近所に話をしてくれるようになってきた。わからない時は包括に確認するようにしている。※とても良くなった。同フロアの誰かは知っている。 ・入院しているか包括に確認し、わかることが増えてきた。 ・男性独居が多い。男性同士は話をすることがないのでアプローチが難しい。女性は女性同士で話をするので入りやすい。正直、女性が入ってくると安心する。 ・もしもの時に110番、119番するか躊躇する。その時、相談できるところがあると安心する。池上警察へ相談する。お巡りさんも悩んで一緒に考えてくれる。池上警察署も遠慮しないでいつでも呼んでくださいと言ってくれる。 ・中にいるかわからない時にどうすればいいか。どのくらい待てばいいかわからない。1日？3日？※みなさんどうしているか？ ・家族がいる方、家族同士のトラブル(本人と養護者)が近所に迷惑をかけているが事件になっていないので入れない。包括やCM、警察へ言ってもなかなか介入できずどう対応しているかわからない。 <p>【都営住宅16号館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化して困っている。一番の悩み。自分もいつ倒れるかわからない。 ・この年まで会長をするとは思わなかった。担い手がいらない。若い時は役員も動いていたが高齢化してきて自治会としての動きが大変になってきた。 ・新聞紙が溜まっていて駆けつけ、119番した。本人は入院していた。どうなっているかわからない時がある。※以前より減った。 ・救急搬送される方が誰にも言わずに行ってしまう。 ・入居時に緊急連絡先をなるべく聞いている。個人情報があるので会長のみ持っている。 ・騒音被害？思い込み？の人がいて話を聞いていたらこっちが参ってしまう。 ・330世帯住んでいる。男性独居は30くらい。女性は100くらい。 ・住民とコミュニケーションを取るよう心がけている。 ・話がうまくかみ合わない人が増えた。みんな高齢化しているため。 ・JKKも入居者の選定はできないのはわかっている。 					

検討内容	課題解決に向けた意見 (続き)	<p>(続き)</p> <p>【都営住宅27号館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法が壁になっていて自治会でも管理ができない。全世帯の把握ができない。強制力が自治会にもない。区やJKKも個人情報があるとのことで教えてくれないが、実際に動くのは自治会。対応が後手に回ってしまう。 ・入院する時に届出を自治会へ言う人も言わない人もいる。 ・緊急連絡先を自治会へ教えてくれない方も多く、対応しきれない。半分くらいはいるのでは？ ・入居届は出すが退去届がないのでいつ出ていったのかがわからない。退去届という制度を早急に作ってほしい。入居届が簡易すぎてそれ以上の情報は自治会に丸投げで、自治会が把握するのが難しい。 ・外国籍の方もいるがコミュニケーションを取るのが難しい。 ・孤立している人もいる。回覧板はみていない。拒否して入ることもできない。 ・JKKや包括ともっと連携を深めないといけな。けれど個人情報とのことでできない部分が多すぎる。 ・対応に時間がかかりすぎる。※改善してほしい。 ・家庭内トラブルもあるがどこまで立ち入っていいのかわからない。 ・自分の部屋の窓ガラスを割るような人もいた。どこまでやっていいのか。どうすればいいのかわからない。 ・都営住宅はほぼほぼ高齢者。外部と会話をしない。拒絶して入れない。自治会への被害妄想があり拒否する人もいる。今は会長のみ話してくれる。 <p>【民生委員児童委員等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居時は見守りキーホルダーの勧奨をしている。見守りキーホルダーの登録者は増えているが拒否する人もいる。緊急連絡先がない人はしにくいようで、説明するがしない方がいる。拒否すると個人情報のことがあり入っていけない。 ・上下からの騒音相談があるが、民生委員ではどうしようもない。包括や社協へ相談し、解決する場合もある。疾患のある住民も増えている。 ・外国籍の人が増えている。茶話会を開催し、生活での困りごとを聞いている。日本人の方がちゃんとしていないとの意見もある。逆に外国籍の人から意見や提案を受けることもある。 ・外国籍の人は文書を読めないという方もいる。レガートおおたと連携している。また、土日仕事が多い。飲食関係が多い印象。夕方になると外国籍の人が集まっているのを見る。 ・外国籍の人は都営住宅へ入りたいという人が多い。これから増えてくるのでは。 ・自治会自体が高齢化して何かしたいと思ってもできない。 ・守秘義務があり知りえたことを中々、伝えられない。 ・民生委員としてではなく住民として接することもある。 ・訪問しても会えない人もいる。メモ書きを入れてなるべく会うようにしている。 ・自分もひとりになり思うところがある。地域の方となるべく顔見知りになれるように努めている。最近、2件ほど安否確認をした。 ・病院とのホットラインが作れないのかと思う。 ・階段にたばこが落ちていて、火が消えていない時がある。対応に困っている。 ・シニア会のイベントで知り合いになることが多い。そこでいろいろな相談をそれぞれにするようになる。そこでわかることもある。 ・花壇の手入れをしているが名前も知らない人もいる。 ・民生委員からひとり暮らし高齢者登録者への訪問をしているがコロナ渦後、対面ができない。ひとり暮らし高齢者登録のメリットがないとの意見がある。高齢夫婦の登録制度などは区へもあげている。 ・外国籍の人の管理が課題になっている。
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・JKKと自治会間でよりスムーズな連絡方法を検討する。 ・入居者に関して何か気になった場合には、直ちに関係機関に連絡して、連携して対応する。 ・入退院情報など、介護保険事業者と自治会との連絡がより効果的に行えるように試みる。 ・出張所を始めとした行政機関や区社協等と連携し、重層的課題に関しても連携していく。
区へのべル案議	区全体に共通すると考えられる課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会のみで問題事項を考えるのではなく、周囲の関係機関と日頃から連絡し、連携することによって、個人情報法上の制約をきちんとした形でクリアするように心がける。
	事業や取組の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者見守り推進事業者のみならず、介護保険事業者やその他の関係機関と自治会町内会の日頃からの連携体制の構築を心がける。

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	蒲田東		
会議テーマ (地域課題)	今倒れたらあなたは どうする？ 「起きてからでは遅い。倒れる前に考えておく事。できることから少しずつ話し合ってみましょう。」		
テーマ (地域課題) 選定理由	シルバーピアコースターで、2月3日と上記テーマで居住者や町会長、地域の介護事業所の担当者やケアマネジャーと話し合いを重ねた中で、住民と町会とのつながりができ、地域の社会資源を知る事ができた。その際に、「老いじたく」についても備えておけると良いと意見があり、社会福祉協議会の職員を交えて個々の「老いじたく」を始める事を旨とする。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (シルバーピアコースター居住者へ「老いじたく」の認知と意識づけを促す)		
開催日時	令和7年7月4日(金)	10時00分 ~ 11時30分	(1時間30分)
開催場所	シルバーピアコースター 団らん室		
出席者	シルバーピアコースター居住者 5名、シルバーピアコースター協力員 1名、まちづくり公社 1名、おおた社会福祉協議会成年後見センター 3名(内1名実習生)、南蒲田三丁目町会町会、南蒲田三丁目民生委員、地域包括支援センター蒲田東 2名		
出席者区分 ・人数	自治会・町会 1人	民生委員 1人	シニアクラブ 人
	その他地域活動団体 人	介護事業所 人	医療機関・薬局 人
	その他民間事業所 人	社会福祉協議会 3人	その他 7人
	特別出張所 人	地域福祉課 人	その他区職員 人
	地域包括支援センター 2人	合計	14人
検討内容	課題解決に向けた意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が死んだ時に兄弟やその家族には迷惑をかけたくないから、話し合っておこうと思った。 ・写真や昔から持っている物はもう捨てようと思った。 ・電気ショックを受けて心臓がまた動く様になるのも延命だと初めて知った。 ・「リビングウィル」など普段聞かないようなカタカナ言葉ではなく、もう少しわかりやすい言葉で伝えてもらえたら、他の人にも勧めやすくなる。 ・「老いじたく」というタイトルだと気持ちが暗くなる。また、講義形式で一方向的に聞くのではなく、もっと楽しくわかりやすく参加できる形式の方が前向きに考えられてよい。 	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で「今から始めよう自分らしい老いじたく」のリーフレットを活用する。 ・町会にシルバーピアの居住者が参加しやすくなる様に、シルバーピア内で夏祭りや町会の催しを周知する。 ・社会福祉協議会で行う、今後の「老いじたく」セミナーの手法について、よりわかりやすく・参加しやすいものを工夫していく。 ・社会福祉協議会が行う「老いじたく」セミナーを町会会館を活用して開催できるように、地域包括支援センターが町会と社会福祉協議会の橋渡しをする。 	
区レベルの提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が「【老いじたく】という名前に明るい印象がなく、考えたくない」と、感想を述べられた事に住民達も共感し、それぞれに感想を述べられていた。また、町会長からは老いじたく情報登録事業の案内に記載されているカタカナ単語に対して「言葉の意味がわからない」と、意見があった事もあり、行政が勧めたい計画と生活している住民達の意識や計画を読み解く力に差があると感じ、区全体で共通する課題になると考えた。 	
	事業や取組の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、話し合った後期高齢者の中には民生委員と町会長と地域で活動されている方も含まれていたが、全体的に【老いじたく】という言葉に対して悲観的な印象を受ける事を聞き取った。地域包括支援センターでも老いじたく情報登録事業を案内する事はあるが、前向きに反応された方はないと感じる。その為、いざという時に備える事を事務的にではなく、個人個人がより身近に感じ、明るく取り組めるように意識できる説明方法が適していると感じ、提案する。 	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	蒲田東		
会議テーマ (地域課題)	南蒲田三丁目町会 見守り・声掛け訓練		
テーマ (地域課題) 選定理由	男性独居・認知症高齢者の方たちも含め、地域の方たち皆さんが自分らしい生活を送れるよう、見守りのある地域づくりの実践として、一緒に考える機会をつくる。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年11月21日(金)	13時45分 ~ 15時00分	(1時間15分)
開催場所	南蒲田三丁目町会会館 三丁目児童公園		
出席者	町会関係者(町会長・民生委員・町会の方々)、蒲田東管轄内の居宅介護支援事業所、地域密着型通所介護事業所、明治安田生命、地域包括支援センター蒲田		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	7 人	民生委員
	その他地域活動団体	人	介護事業所
	その他民間事業所	1 人	社会福祉協議会
	特別出張所	人	地域福祉課
	地域包括支援センター	5 人	合計
			18人
検討内容	課題解決に向けた意見	(声掛け訓練参加者) ・どういふ人かわからないところで声掛けをするのは不安だったりする。 ・どう声掛けしてよいかわからず、難しかった。良い経験ができた。 ・大丈夫という人に声を掛け続けるのはしづらい。 ・声を掛けた後に、どうしてよいかわからない。 ・まずは挨拶からするのがよい。 ・一人だと声をかけづらい、誰かと一緒なら声掛けしやすい。 ・普段から声掛けしているの、自然にできた。 ・高齢者は銀行での引き出しの上限が20万円だということを知った。色々規制されるのは安心だが不便な世の中だとも思った。 ・普段からシュミレーションできているとよいかと思った。 ・解決を最初から目指すのではなく、挨拶でも構わないので声掛けをして地域でのつながりが継続出来ていると、いざという時に包括も入りやすい。 ・地域や町会との繋がりが大事。町会の行事や集い場に来ていれば姿が見えない時や様子が変だと気づきやすい。 ・色々な認知症のパターンがあり、その人に合った声かけや対応があることがわかり勉強になった。 ・認知症当事者について自分なりの対応を考えていたが、実際に声をかけるとそれぞれ人によって反応に違いがあり困惑した。 ・自信はないが、今後積極的な気持ちで声掛けしたいと思う。 (認知症当事者役の方) ・しっかり目を見て話を聞こう、という姿勢が伝わった。視線を合わせるという事は相手に安心を与える材料の一つかと思う。 ・事業所内でロールプレイングで研修することもあるが、地域の方と一緒にいることで、また違った視点で行うことが出来、こちらとしても勉強になった。 ・大丈夫と言いつける人の声掛けは難しいと感じた。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・心配な方がいたら、声掛けできている人もいる。一人で声掛けするのが不安な場合はご近所同士で一緒に声をかけたり、挨拶だけでもして繋がりを続け、包括などの専門機関に相談していく。 ・地域の介護支援事業所とも顔見知りの関係になると、地域での相談者が増えてよい。	
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・一人暮らしの男性など地域とのつながりが希薄になりがち。また、一人暮らしの認知症の方も増えており、どちらも困っても、自分ではなかなかSOSを発信できない場合がある。 ・声を掛けることに戸惑いや勇気が必要で、心配であってもどうしたら良いかわからず、見過ごされてしまう場合がある。	
	事業や取組の提案	・今後も地域の方と地域の事業所も交えて、課題の周知や情報共有などを行い、対応を一緒に検討していく。 ・見守りに対する意識啓発や情報発信(包括の案内や心配な方を見かけた時の対応を、SNSやホームページ、区報を使って、定期的に発信を行う)	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	大森東		
会議テーマ (地域課題)	大森東地区における生活困窮者に対する食料支援について		
テーマ (地域課題) 選定理由	地域包括支援センター大森東に生活困窮者の相談が続き、生活維持をはかるため食料支援を実施しようとするも、現在大田区に社会福祉協議会におけるフードパントリーが年間2回(生活保護受給者は不可)、大森東地区に大森中診療所が毎月1回と食料支援の機会が限定的。そのため、大森東地区の社会資源を有効利用し、地域課題の解決を図りたい。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input checked="" type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 孤立防止 <input checked="" type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (JOBOTA)		
開催日時	令和7年7月4日(金) 13時30分 ~ 15時00分 (1時間30分)		
開催場所	東京労災病院 会議室		
出席者	東京労災病院 2名、こども食堂moi 2名、大森東特別出張所 2名、JOBOTA 2名、社会福祉協議会地域福祉コーディネーター 3名、地域包括支援センター大森東 2名		
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員
	その他地域活動団体	2 人	介護事業所
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会
	特別出張所	2 人	地域福祉課
	地域包括支援センター	2 人	合計
			13人
検討内容	課題解決に向けた意見	<p>【地域包括支援センター大森東より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口に生活困窮者が来所され食糧支援を希望されるが、地域包括支援センターには食糧の保管は無く、直接的な食糧支援はできない。そのため、社会福祉協議会のフードパントリーを紹介するが、社会福祉協議会のある場所は大森東エリアからは遠く、高齢の相談者には体力的に出向くことが難しいため、職員が代理で食料を受け取りに出向くことがある。また、生活保護受給者は対象外で、食料を受け取ることができるのも年2回のため、必要な方への支援にも限りがある。また同じく大森東エリアでは大森中診療所で月1回のフードパントリーが開催されているが、回数も限られているため同じく支援に限りがある。 <p>【大森東特別出張所より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括、地域福祉コーディネーター、特別出張所との定例会で、食糧支援の地域課題が話題にあがった。東京労災病院の地域貢献としてフードドライブの協力をさせていただけるとのことで、今回、話し合いの場を設けた。 <p>【東京労災病院より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年を最後に、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止していた「病院見学会」を再開することになった。そのなかで食糧支援といった話をもらったので是非、地域貢献として取り組みたい。フードドライブの食料として、病院の防災備蓄を提供する。 <p>【地域福祉コーディネーターより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食糧支援の背景には、生活再建を抱えているケースもあるため、JOBOTAに協力いただき地域の方を支援していく。 <p>【こども食堂moiより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の3月の東京労災病院でイベントの協力をさせていただいた。物価高騰による生活困窮の課題は高齢者に限らず、若い世代においても影響がある。今回も同様にこども達に低額で食事を提供するキッチンカーを招き、こども向けイベントなどの通じて多世代交流を図りたい。 	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	<p>【病院見学会の実施について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月6日(土) 予定でイベント詳細について、関係機関で打ち合わせをする。フードパントリーで提供する食品の内容や数について確認。 <p>現状: 防災備蓄食品の数</p> <p style="margin-left: 20px;">東京労災病院 カレーピラフ150食、コーンピラフ150食、五目ごはん200食</p> <p style="margin-left: 20px;">大森東特別出張所 防災クラッカー150食</p> <p style="margin-left: 20px;">社会福祉協議会 150食分の食料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの広報について、チラシを東京労災病院と特別出張所とで作成。地域力推進会議や民生委員児童委員協議会で周知する。また、8月13日の自治会長会で了解を取って、自治会の掲示板を利用して広報する。 	
区へのべ提ル案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・フードドライブやフードパントリーでの食糧支援の仕組みは整いつつあるが、支援を受ける場所や時期、要件が限定的で急遽支援が必要になった方への支援について課題が残されている。	
	事業や取組の提案	・24時間365日、食糧支援を必要とされる方が支援を受けられる場所を作る。 ※参考: コミュニティフリッジ	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	糀谷					
会議テーマ (地域課題)	認知症ケアの実際と実践を地域の人にも知ってもらう 認知症理解のために必要なことは？					
テーマ (地域課題) 選定理由	福祉のまち糀谷において、地域包括ケアや認知症ケアなど質の高いサービス提供や取組を行っている事業者・関係者が多くある。 地域事業者の取組を知ってもらうことで認知症に関する理解が深まり、ひいては介護予防/フレイル予防にも繋がっていけばという関係者の思いから、認知症シンポジウムを開催する運びとなった。 各専門職で地域課題/高齢者課題や現在行っている取り組みを共有。また、それらを踏まえて地域の方々に認知症を知ってもらうにはどうしたら良いかを話し合うこととなった。					
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input checked="" type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()					
開催日時	令和7年6月12日(木)	10時30分 ~ 11時30分	(1時間00分)			
開催場所	地域包括支援センター糀谷 1F					
出席者	セントセア小規模多機能、SOMPOケア、ケアプランセンター絆羽田、老人保健施設アクア東糀谷、ニチイほほえみ大鳥居、看護ステーションリカバリー(蒲田営業所)、地域包括支援センター糀谷 2名					
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員	人	シニアクラブ	人
	その他地域活動団体	人	介護事業所	5人	医療機関・薬局	1人
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	人	その他	人
	特別出張所	人	地域福祉課	人	その他区職員	人
	地域包括支援センター	2人	合計		8人	
検討内容	課題解決に向けた意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に実際の認知症ケアなどについて触れてもらえたらと思う。 ・施設についてはマイナスのイメージが強い。実際になかなか内部を見れないという事情もある。 ・規則正しい生活。人との交わり。レクだけが認知症ケアでないことも知ってもらえたら。 ・施設の1日、明るいイメージの発信(動画等) ・施設だけでなく在宅でも関わり方で良い変化が見られたケースもある。在宅での発信もしていければ。 ・当事者の気持ちの理解について→当事者発信もできると良い ・医師講話は地域の方も興味がある。また集客の目玉にもなりうる。 ・糀谷版ケアパスの作成、シンポジウムの内容をネットで発信(QRコード等) 				
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	【包括】 ・参加事業所幹事と共に糀谷認知症シンポジウムを開催する(9/24 14時から15時30分) ・地域に向けた周知活動。地域の医師へ講座登壇への依頼。 【医療/介護/福祉/従事者】 ・各事業所での取組を視覚化し当日の発表とし、地域の方にケアの実際と実践を見ていただく。 【今後の取組等】 ・わかりやすい形を意識し、認知症についての理解を推し進める。 ・地域全体での認知症含めた方々の見守りにつなげていく。				
区へのレベル 提呈案 会議	区全体に共通 すると考えられる 課題	包括や事業所だけでは限界もある。より良い地域包括ケアシステムや共生社会を構築のために、地域の方々にも力を借りる必要がある。見守り力を強めていくことで高齢者や認知症等々の方が安心して過ごせる地域を作ることができる。				
	事業や取組 の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムなどを通じて認知症の理解を深める。 ・緩やかな見守り活動の提案、講座の実施等。 ・地域の実際のケアや事業所を知ってもらうための取組を実施等。 				

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	糀谷		
会議テーマ (地域課題)	各専門職からみた糀谷地域高齢者の課題について		
テーマ (地域課題) 選定理由	各専門職からみた糀谷地域の地域特性や課題、また高齢者の課題を共有する。そしてその課題に対する今後考えられる対応を議論するため。		
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input checked="" type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 見守り <input checked="" type="checkbox"/> 孤立防止 <input checked="" type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input checked="" type="checkbox"/> 医療 <input checked="" type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input type="checkbox"/> その他 ()		
開催日時	令和7年11月26日(水)	15時45分 ~ 16時30分	(0時間45分)
開催場所	糀谷特別出張所 2階会議室		
出席者	地域包括支援センター糀谷 2名、高齢者施設職員 4名、医療関係者 5名、介護関係者 2名、福祉用具関係者 1名、障害者支援事業関係者 1名		
出席者区分 ・人数	自治会・町会 人	民生委員 人	シニアクラブ 人
	その他地域活動団体 人	介護事業所 2人	医療機関・薬局 5人
	その他民間事業所 4人	社会福祉協議会 人	その他 2人
	特別出張所 人	地域福祉課 人	その他区職員 人
	地域包括支援センター 2人	合計	15人
検討内容	課題解決に向けた意見	・地域のつながりが強い地域性がある。そのため、狭い関わりの中で支えようとして、支えきれなくなってからの相談となる。こういった地域性なのか早期からの介入が難しい。家族がいても遠方に住んでいることや、家族からの支援が受けづらい状況の方も多。また、昨今の物価高騰の影響もあってか、往診やサービスを勧めても金銭面を心配して進まない。子ども世代の方たちが、ネット情報で必要なものを検索し、(親に)提供しているためか、介護保険などの制度そのものを知らない方も多くいる。今後、地域のつながりの強さを利用しての「ロコミ」で発信することはできないだろうか。	
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	・地域の見守りの推進 ・地域へ気軽に「相談」できる場所を知ってもらう活動(KH登録会、地域活動への参加) ・介護事業者も関わりのある利用者を介し、友人知人へ制度概要や相談場所があるということが伝わるようなアクションを心掛ける	
区へのレベル提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・互助・共助ひいては公助へ、といった流れが組めるように、そのような認識が適切に広まるように、地域への情報発信と正しい理解が得られるような取り組みが必要。	
	事業や取組の提案	・見守りサポーターの普及活動の推進(ゆるやかな地域の見守り活動の推奨)	

大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

日常生活圏域名	羽田					
会議テーマ (地域課題)	①重層的支援と児童への関わりについて ②補聴器についての説明会及び意見交換会					
テーマ (地域課題) 選定理由	①糀谷・羽田基本圏域の重層的支援会議で検討した児童が関係する事例を通じて、家族が抱える問題・課題が複雑化・複合化してきている事、児童を取り巻く、新たな問題の一つとして「ヤングケアラー」が注目されている事についての学びを通じて、重層的支援体制整備事業についての理解を深めるため。 ②補聴器の利用と大田区高齢補聴器購入費助成事業について、説明会・意見交換を実施。					
地域課題 キーワード (複数選択可)	フレイル予防(<input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 栄養 <input type="checkbox"/> 社会参加) <input type="checkbox"/> 通いの場 <input checked="" type="checkbox"/> 多世代交流 <input type="checkbox"/> 防災・防犯 <input type="checkbox"/> 認知症 <input type="checkbox"/> 見守り <input type="checkbox"/> 孤立防止 <input type="checkbox"/> 支援困難 民間事業者との連携(<input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 介護 <input type="checkbox"/> 一般) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (重層的体制整備事業について)					
開催日時	令和7年8月5日(火)	14時00分 ~ 15時30分	(1時間30分)			
開催場所	羽田地域力推進センター 4階 会議室					
出席者	羽田地区民生委員児童委員、糀谷・羽田地域福祉課(多機関連携調整担当)、地域包括支援センター羽田					
出席者区分 ・人数	自治会・町会	人	民生委員	30 人	シニアクラブ	人
	その他地域活動団体	人	介護事業所	人	医療機関・薬局	人
	その他民間事業所	人	社会福祉協議会	人	その他	人
	特別出張所	人	地域福祉課	1 人	その他区職員	人
	地域包括支援センター	2 人	合計	33人		
検討内容	課題解決に向けた意見	① ・地域共生社会や重層的支援体制整備事業について理解を深める事ができた。 ・ヤングケアラーの位置づけが難しい。 ・ヤングケアラーを含めた児童の相談窓口が多くある事がわかった。 ② ・大田区高齢者補聴器購入費助成事業について学ぶことができた。 ・高齢者難聴については早めの対策と購入後も調整が重要であることが分かった。 ・補聴器金額から考えると助成金額が少ない。 ・スタンダードタイプで20万円位する。 ・購入しても補聴器が合わない人もいる。 ・もう少し助成金額をあげてくれないと必要な人が購入することができない。				
	決定事項・役割分担 (日常生活圏域における今後の取組)	①今後の定期的な重層的支援体制整備事業について説明を行っていく。重層的支援会議で検討した事例など民生委員児童委員協議会等で共有を図る(事例は架空の事例を使用)。 ②大田区高齢者補聴器購入費助成事業の助成金額の引き上げについて大田区福祉部に提案する。				
区へのレベル 提案会議	区全体に共通すると考えられる課題	・地域共生社会、重層的支援体制整備事業の整備を進めていく上で、地域で活動、活躍している民生委員児童委員の理解促進。				
	事業や取組の提案	①重層的支援会議に参加してもらい、「我が事」として認識してもらう。 ②補聴器が購入しやすいような助成金額の検討。				

